

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第21回(令和2年度第2回)キセラ川西エコまち協議会	
事務局(担当課)		土木部 キセラ川西推進課	
開催日時		令和3年3月19日(金) 10時00分 ~ 12時00分	
開催場所		オンライン開催	
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、加美田、中家、中垣、畑中、船木、阪上、篠崎、井上、五島(敬称略)	
	その他	(オブザーバー)佐々木、小橋、菅(敬称略)	
	事務局	福庭、古山、山村、西寄、名嘉眞 寺田、堀内、渡辺、池永、小早川(公園緑地課) 絹原、西本(調査機関)	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会議次第		1 開会あいさつ 2 報告(前回からの続き) <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築行為等の手続条例運用状況(令和3年2月28日時点)(資料1-1) ・ 第四回 エコまち建築賞 受賞報告(資料1-2) ・ 交通部会について(資料1-3) ・ みどり部会について(資料1-4-1、1-4-2、1-4-3、1-4-4、1-4-5) ・ 環境学習・普及啓発(資料1-5) 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価とその後の展開に向けて(検討案)(資料2-1) 4 今後の予定	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審 議 経 過

<開会>

1. 開会あいさつ

(土木部 部長あいさつ)

- ・エコまち協議会も平成 24 年の設置から 10 年になる。同年にエコまち法が制定され、本地区のエコまち計画が全国初めての策定となった。
- ・近年では SDGs やカーボンニュートラルなどが議論されるようになってきているが、本地区の取り組みは低炭素ということで時代を先取りしていたのかと今になって思うところである。
- ・このエコまち計画の取り組みは 10 年という期間を設定しており、残りあと 2 年でゴールが見えてきた。
- ・本体の区画整理は 7 月の換地処分を終えており、今年度をもってキセラ川西推進課も終わる予定であり、来年度以降はエコまち計画の所管が公園緑地課に移っていく予定だが、前向きに計画目標達成に取り組んでいきたい。
- ・2 年後に向けてどう総括するかが問われていると考えており、委員の皆様にあたっては、活発な議論をいただき、取り組んでいきたい。リモート会議でご不便もおかけするところかと思うが、引き続きよろしくお願い致します。

会長

- ・報告事項について事務局から説明をお願いします。

2. 報告(前回からの続き)

○事務局

・資料説明

建築行為等の手続条例運用状況(令和 3 年 2 月 28 日時点)(資料 1-1)

第四回 エコまち建築賞 受賞報告(資料 1-2)

交通部会について(資料 1-3)

みどり部会について(資料 1-4-1、1-4-2、1-4-3、1-4-4、1-4-5)

環境学習・普及啓発(資料 1-5)

○委員

- ・資料 1-4-1 で、左上のキセラ川西公園の利活用の状況について開催回数や参加人数を見てよく活用されているとわかる。令和 2 年 6 月から令和 2 年 12 月末まで、7 ヶ月間集計のかっこ内の数字はどういった意味か。

事務局

- ・参加人数を回数で割ったものです。「1,200 人/回」は誤りで、「100 人/回」に訂正する。

委員

- ・資料 1-1 の運用状況について。ラベリング採点結果の全体の星の傾向や、運用基準の協議に応じて

くれるものとハードルの高いものの傾向があるのか。

事務局

- ・資料 1-1 の左側に記載の基準を満たすものをエコまち建築賞の対象としている。全体の傾向としては、規模の大きい建築物や大手企業による建築物は一定の条件を満たすが、特に戸建住宅や個人事業者などが手掛けるものは基準を満たすのが難しい傾向にある。
- ・大手ハウスメーカーが建てる戸建て住宅は仕様で低炭素が考慮されているので、基準を満たしエコまち建築賞の対象ともなるが、大手ではないと低炭素の基準を満たさないことが多い。
- ・建築敷地が大きいものは緑地の確保に協力的だが、小さい敷地であると難しくなる。

会長

- ・大規模建築物は星3つ以上が多いという傾向であったが、規模・敷地の小さいものは取り組める範囲も少なく、星3つはなかなか難しい状況ということである。
- ・エコまち運用基準の項目で、ハードルが高いものはなにかあるか。

事務局

- ・エコまち運用基準に協議する項目を用途や規模、建てられる場所によって決めている。低炭素分野については特別配慮する項目「S」を設定しているのだが、ここの協力が難しい。具体的には再生可能エネルギーの導入（太陽光設置、低炭素建築物の認定取得）など。
- ・CASBEEについては、Aランク以上をSとしているが、この基準を満たすものが少ない。

会長

- ・完了報告が1件あるが、事前協議完了したものの中でどうなれば完了報告となるか。H30-12の物件は、完了報告はどれにあたるのか、また用途は何か。
- ・表1で令和2年度の完了報告は0件となっているが、次年度に出てくるのか。

事務局

- ・事前協議を経て建てられた建築物が竣工の後、完了報告書の提出がされたものの件数が完了報告件数となる。
- ・H30-12について、地区の南に位置するせせらぎ遊歩道の北にある物件。用途は共同住宅になります。
- ・完了報告の件数は、H30-12のH30年度の表の一番下の項目「完了報告が提出された件数 12件（令和3年度2月28日時点）」が反映されている。
- ・H30-12は物件番号。ここでは平成30年度に事前協議をし、令和3年1月に完了報告が提出されている。

会長

- ・H30年度の「完了報告が提出された件数 12件」はどういった意味か。

事務局

- ・平成 30 年度に事前協議の申請があったのが「事前協議完了件数 13 件」。そのうち完了報告があったのが「完了報告が提出された件数 12 件」で未提出のものが 1 件あるということ。

会長

- ・事前協議の件数と完了報告された件数の年度のまとめ方にずれが生じていることは分かった。

委員

- ・資料 1-3 交通部会でも中心市街地における回遊性を高めるサイン検討を行い、まちあるきを通して実現に向けて動いている。
- ・まちあるきをして、市単独で行うというより県道の関係で県や電柱の関係で関西電力などの関係者の協力がないと実現しないと感じた。
- ・阪急川西能勢口駅の改札を出たときの阪急電鉄の案内板のカスタマイズが望ましいと感じ、鉄道事業者の協力が必要とされる。

会長

- ・エリアだけサインを特別仕様にする可能性もある。丸の内のようなエリアでの開発では特別仕様ができるが、既成市街地だと難しく、協議会方式ならば可能性はある。個別での対応は難しく、エリアマネジメントで対応していくべき取り組みである。

委員

- ・計画はできたが実現に持っていくための方法論について検討が必要になる。実現できるかは別として、市のスタンダードなデザイン・基準とさせることも含めて検討していきたい。

会長

- ・ぜひ頑張っていたきたい。道路行政では国道仕様など当たり前に来てきた部分である。
- ・川西能勢口駅周辺が人口集中エリアとして駅前とキセラの回遊性を高める方策を考えているが、エリアの北の方はどうするのか。誘致主体はどうするか、全体としての回遊性をどう魅力的にするかも気になる。

委員

- ・エコまち計画の最終年度が近づいてきたが、市民の生活はこれからも続いていくものであり、引き続き充実させる必要がある。
- ・PFI 事業で取り組んでいたものをどうスムーズに市民や市役所に移行・継承させるかを考えたときに、思ったより時間がない。2023 年度からの新体制だと、2022 年度は官民一緒に練習する 1 年になる。そうなると 2021 年度に次の移行について検討を終えないといけない。
- ・資料 1-4-3 に現状の体制や目指す体制を記載されているが、令和 4 年度末に急に移行するわけにはいかないの、2021 年度の動きが重要になる。
- ・資料 1-5 で、今後、市民が自主的に取り組める仕組みづくりが必要。例えば、動画の作成も市民レポーター制度などで市民が積極的に関わることで、市民に継承・更新されていくような仕掛けづくりに取り組みたい。

会長

- ・活動後にどうなるか、何を継承して、何が難しいかなど整理した方がいいかもしれない。その後の課題や次の施策として生まれる。次の議事に関連する事項なので、説明をお願いしたい。

3. 議事

○事務局

- ・資料説明

「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価とその後の展開に向けて（検討案）（資料2-1）

○会長

- ・最後に発言された、ABCD といった評価をするというのは、資料のどこに記載されているのか。

事務局

- ・資料には記載していない。

○会長

- ・低炭素がかつては先進的だったが、今や「脱炭素」といわれている。そのような観点からも見直しの必要があるかもしれない。
- ・最近のまちづくりはスマートシティやカーボンフリーがキーワードとなっている。特にスマートシティではコミュニティのあり方として、医療体制や防災を視野に入れ検討されている。このような低炭素だけではない方向性をどう膨らませていくのか。
- ・例えばキセラ川西せせらぎ公園を PCR・ワクチンの拠点とするのはどうか。コミュニティを強化・レジリエントにするにあたってコロナ対策を戦術的に使っていき、地域と NPO が一体となって活動する医療・介護のネットワークの拠点とさせる可能性もある。

委員

- ・持続可能なまちを考えるとときには、整備した断面での固定的なまちの姿ではなく、時間変化で対応できる仕組みが内包されていることが重要になる。
- ・1 ページの下に定量的な情報集約とあるが、定量で評価できない部分をどうするか。到達点の評価ではなく、方向性・ベクトルの評価、それを継続させられるのかといった仕組みやシステムを評価することが課題。
- ・みどり分野でいうと、育てることや管理の点については今回では評価の視点が見られない。間口緑視率の現状の量の評価だけではなく、メンテナンスプログラムや参画の機会なども含めたマネジメントの評価が今後重要になる。

事務局

- ・参考にさせて頂きたい。

○会長

- ・6 ページ右側の、長期優良住宅の認定数について。成果は上がっているが、今後の方針として、残りはどうするのか、将来的にどう改善するのか、政策展開など PDCA サイクルを意識して反映させるべき。

委員

- ・評価は協議会が自身で評価しているのか。今後、市がどうしようとしているかが見えない。協議会は無くなってしまうので、誰が引き継ぐか、体制をどうするか、地域住民のバックアップをどうするかなどを考える必要がある。
- ・川西市としての立場と、協議会としての立場は違い、どのような意見を発言すれば良いか。議論の目的を確認したい。

会長

- ・提出された成果・効果の資料について、PDCA でいう Do をしたものの Check を事務局でまとめている。残りの期間で基本方針に沿って満点に収める、あるいは近づけていくためにどうするか検討していただき、その案についての上承を頂きたい、という趣旨ではないか。

委員

- ・脱炭素に向けて、日本もその対策を急加速で取り組んでおり、本気モードになっている。
- ・キセラ川西でも当初はエネルギー融通の計画がなされ、コスト面で見送りになったものもあるが、昨今注目されている PPA（売電事業者と、需要者が直接、電気の売買契約を結ぶ形態）などのような支援策も考えていくべき。

委員

- ・自転車やレンタサイクルに関して、交通部会で積み残しがあつたのは心残りである。低炭素を進めるなかで自転車が利用されやすいと考えられるが、公園内の走行の安全性や自転車道の整備などを市のどこの分野・計画でフォローしていくのか。

事務局

- ・公園と自転車は、利用マナーの関係と捉えている。公園内の走行は押し歩きとしているが、事故も発生しており、今はマナー啓発という形で事故防止に努めている。

委員

- ・駐輪場の整備やどこが押し歩きなのか、公園の計画時点できちんとしておかないと、結局無法地帯になってしまう。市民目線で早急に対応するべき、単なるマナー啓発で良くなった事例がない。
- ・効果的な事例として、松山の商店街では、自転車の通行が禁止になっていて、押し歩きしている人に「ありがとう」と言っている。社会心理学と市の自転車政策とのマージ（併合）を取った好例となっている。自転車の取り扱いについて再度検討するべきである。

会長

- ・ 議事についてはこれで終了としたい。最後の事務局の評価についてはまた報告していただきたい。今回の意見をとりとまとめ、修正し協議会として成果としたい。

4 . 今後の予定

○事務局

- ・ 長時間ありがとうございました。加藤会長も議事進行をありがとうございました。
- ・ 次回の開催日は来年度の秋頃を想定しており、日が近づいたら詳細をご案内します。